

英国のコホート戦略から学ぶ

小児期・思春期の発達とメンタルヘルス ～2つのコホート研究の経験から～

Louise Arseneault, Ph. D.

Social, Genetic and Developmental Psychiatry Centre
King's College London, UK

英国では、第2次世界大戦直後から国家的に出生コホート研究を推進し、そのエビデンスから、社会の幸福を最大限高めるための対策や政策が検討されてきました。今後、わが国においても、社会の支え手となる子供たちや若者たちが、自らの持つ能力を最大限発揮できる社会のあり方を、根拠に基づいて検討していくことが重要であり、こうした英国におけるコホート研究戦略の歴史や経験の蓄積から学べることも多くあると思われま

す。今回、国際的に注目されている英国の優れた発達コホートプロジェクトの中心的な研究者を招請し、社会学・教育学・心理学・医学・栄養学・生化学など様々な学術領域が協力して進めるコホート研究プロジェクトの実際についてご講演いただきます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

児童・思春期発達コホート学術講演会

2011年12月1日(木)

開場 17:30 / 講演 18:00～19:00 (終了後、懇親会を予定しております)

東京大学大学院医学系研究科

教育研究棟・第6セミナー室 (13階)

主催：文部科学省 新学術領域研究「精神機能の自己制御理解にもとづく思春期の人間形成支援学」

共催：文部科学省 新学術領域研究「現代社会の階層化の機構理解と格差の制御：社会科学と健康科学の融合」
東京都医学総合研究所 心の健康づくりのための予防・治療・リハビリ法プロジェクト
東京大学 こころの発達と障害の教育研究コンソーシアム

講演者紹介



ルイズ・アーセナルト 博士

王立ロンドン大学精神医学研究所 社会・遺伝・発達精神医学センター 准教授

Louise Arseneault, Ph. D.

Social, Genetic and Developmental Psychiatry Centre

Institute of Psychiatry, King's College London, UK

ニュージーランド・ダニーデン出生コホート研究や、全英双生児発達コホート研究 (E-RISK) など、国際的に高い評価を受けている大型発達コホートプロジェクトにおいて中心的な役割を果たしている。遺伝・環境・発達の相互作用の解明に向けた最新のコホート研究を推進し、成人期のライフアウトカムに影響を与える発達期の予防・リスク要因の解明を進めている。専門は、発達精神病理、発達行動科学。

Selected Recent Publications:

- Danese A, et al. Biological embedding of stress through inflammation processes in childhood. *Molecular Psychiatry* 16, 244-246 (2011).
- Polanczyk G, et al. Childhood psychotic symptoms share etiological and clinical features with adult schizophrenia: Results from a representative birth cohort. *Archives of General Psychiatry* 67, 328-338 (2010).
- Arseneault L, et al. Cannabis use in adolescence and risk for adult psychosis: longitudinal prospective study. *British Medical Journal* 325, 1212-1213 (2002).

会場案内

東京大学大学院医学系研究科 教育研究棟・第6セミナー室 (13階)

所要時間

東京メトロ丸ノ内線	本郷三丁目駅	2番出口	徒歩約 5分
都営地下鉄大江戸線	本郷三丁目駅	5番出口	徒歩約 5分
東京メトロ南北線	東大前駅	1番出口	徒歩約 10分

